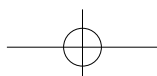
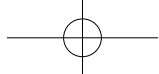


お び の っ ぽ ら  
**大日野原遺跡**  
— 2013 年度発掘調査概報 —



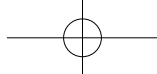
2014 年 3 月 31 日  
小林謙一





## 大日野原遺跡（相模原市 No.465）2013 年度発掘調査実施概要

|                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 遺跡の名称<br>大日野原遺跡（県遺跡番号：相模原市 No.465）<br>相模原市緑区澤井ケッサイコ 724                                                                                                                                             |
| 2. 発掘調査実施組織<br>中央大学文学部（文学部長 河西良治、調査担当者 日本史学専攻小林謙一）                                                                                                                                                     |
| 3. 発掘調査の概要<br>2013 年度は、2013 年 7 月 29 日から 8 月 9 日において、昨年度に調査した第 4 次調査地点のトレンチを一部拡張する形でおこなった。70.9 m <sup>2</sup> の面積を調査し、円形土坑数基、縄紋時代後期の遺物集中 1 基を確認した。古代の須恵器・土師器、縄紋時代中期勝坂式・阿玉台式・後期堀之内式土器および石器が天箱 5 箱分出土した。 |
| 4. 発掘調査の体制<br>中央大学文学部日本史学専攻准教授 小林謙一<br>相模原市立博物館学芸員 正 洋樹<br>中央大学大学院文学研究科日本史学専攻博士前期課程 小澤政彦<br>中央大学文学部・考古学研究会、首都大学東京、早稲田大学、東海大学<br>学生 41 名、相模原市立博物館ボランティア 9 名                                             |
| 5. 出土品等整理計画の概要<br>2012 年度以降の調査資料について、中央大学において実施中である。                                                                                                                                                   |
| 6. 報告書刊行予定時期・出土品の取り扱い<br>引き続き調査が継続されるため、報告書は成果がまとまり次第刊行予定である。出土物は、整理作業中は中央大学で保管し、整理作業終了後は相模原市に移管する。                                                                                                    |
| 7. 発掘調査成果概要<br>遺構確認（縄紋遺物集中 1 箇所、円形土坑・ピット多数）<br>遺物（縄紋土器（中期勝坂式・阿玉台式、後期堀之内式）、石器、古代土器）                                                                                                                     |
| 8. その他・特記事項<br>平成 25 年度科学研究費補助金（基盤 B）「炭素 14 年代測定による縄紋文化の枠組みの再構築 - 環境変動と文化変化の実年代体系化」（代表小林謙一、課題番号 25284153、2013～2017 年度）による学術調査である。<br>相模原市立博物館の調査協力を得ている。                                               |



## 大日野原遺跡（相模原市 No.465）の発掘調査の経緯と成果

### 1) 調査の目的

日本考古学では、炭素 14 年代測定の結果を年代的な位置づけに取り入れることについて、いまだ十分な評価がなしていない状態である。世界史的な視野の中に日本先史時代を位置づけるためには、縄紋時代の炭素 14 年代測定研究を進めることは、緊急の課題である。

縄紋時代の集落研究は、土器編年研究と並び、日本先史考古学の大きな柱となってきたが、その内容は決して十分な成果とは言えない。高度成長期による大規模開発に伴う広域調査により、集落調査例は膨大なものとなったが、かえってその実体については不明確となり、特に最も遺跡数が多く集落も多く発見されている東日本縄紋中期についてみると、同時存在住居の把握や集落の定住性について、異論が続いている。同一の集落例を指して一時期に 100 軒の集落が長期に定住と考える研究者と、1 時期には 1 軒しかなく短い期間で移動とする研究者が、実証的な研究に立ち返ることなく、仮定に基づいた縄紋社会像を組み立てようとしている。膨大なデータとなった集落調査例を集成すると同時に、集落の内容をどのように時期区分するかを検討しなくてはならない。そのために、科学研究費補助金によって、縄紋遺構・集落の年代研究を行うこととし、縄紋中期集落の良好な遺存が期待できる相模原市大日野原遺跡の住居の調査を行い、竪穴住居ライフサイクルを明らかにしつつ、年代測定用試料を採取し分析することとした。相模原市教育委員会の協力により、大日野原遺跡を調査の対象として選定し、地権者及び地元住民、関係機関の協力を得て継続的な調査をおこなうこととした。大日野原遺跡は過去に 2 回小規模な調査がおこなわれ、平安時代及び縄紋時代の集落が確認されているが、農地として利用されており、殆ど全面的に集落が残されていると予想される遺跡である。2008 年度～2011 年度は A～D 区 100㎡を調査し、竪穴住居 7 基以上を確認し、住居 4 基について掘り下げた上で埋め戻した。2008～2011 年度調査分を第 3 次調査として報告書を刊行した（中央大学文学部考古学研究室・相模原市教育委員会『中央大学文学部考古学研究室調査報告書 2 大日野原遺跡―第 3 次発掘調査―』2013 年 3 月）。引き続き他の地点を調査して集落全体の形状を明らかにしていくことを計画し、2012 年度は、2008～2012 年度調査区から東南に 50m 離れた斜面落ち際の地点に第 4 次調査をおこない、縄紋後期埋設土器や多くの縄紋中期・後期土器や平安時代の竪穴住居 1 基、円形土坑などを確認した。2013 年度は第 4 次のトレンチの一部を拡張する形で、縄紋時代の遺構の確認を目的として発掘調査を実施した。

### 2) 調査経緯

科学研究費補助金基盤 C「炭素 14 年代を利用した縄紋時代の住居期間の研究」（2007～2009 年度 課題番号 19520662）の考古学的調査の一端として、相模原市大日野原遺跡の発掘調査を 2008 年度より計画し、2008 年 7 月に相模原市教育委員会と中央大学文学部との間で「大日野原遺跡の共同調査に関する協定書」を取り交わして協力して調査をおこなうこととした。具体的な調査地点は、以前に旧藤野町が 1987 年に調査を行い、古代の住居跡を調査し、縄紋時代の住居が確認されている地点（藤野町 1995）の近隣部を対象とすることとし、地権者の発掘調査承諾書を得た。また、周辺住民・農地所有者、藤野中央公民館の協力を得た。2008 年度は、遺存状態のよい縄紋中期竪穴住居の広がり確認、2009 年度～2011 年度は SI-01・02・03 の全体のプランを確定するため掘り下げた上で全体を調査し 7 基以上の重複する住居群を確認するなど集落の様相を明らかにする上で一定の成果をおさめた。

2012 年度より科学研究費補助金 C「炭素 14 年代測定による縄文集落の研究」（2010 年～2012 年度 課題番号 22520774）における調査として地点を変えて継続することとし、第 4 次調査区として新たな地点を定めて地権者の了承を得た。相模原市教育委員会との共同研究を継続しつつ中央大学における考古



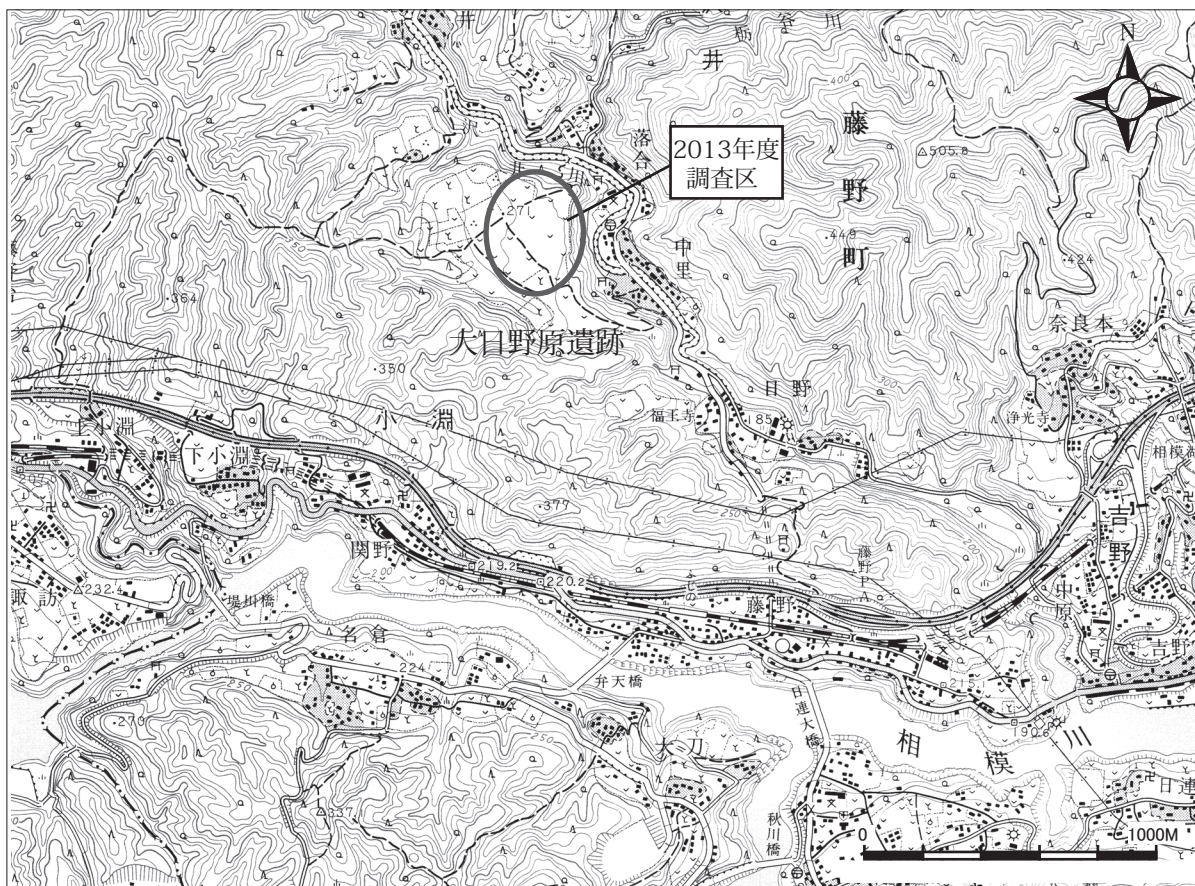
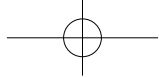


図1 大日野原遺跡の位置

学教育の一環とするために中央大学文学部が調査主体となり、第4次調査を行った。調査区に対し「キ」の字形にトレンチを設定し遺構確認をおこないつつ包含層を掘り下げた。調査面積は74.9㎡であった。中央に東西方向に長さ約24m、幅2mでEトレンチを設定し、直交する南北方向のトレンチとして、西側に長さ約14m、幅1mでFトレンチ、東側に長さ15m、幅1mでGトレンチを設定した。なお、各トレンチの直交部分は柱状に残した。

2013年度は引き続き第4次地点の遺構を確認する目的で調査を計画した。調査担当者は上記科学研究費の研究代表である中央大学文学部日本史学専攻の小林謙一教授が引き続き調査担当とすることとして、中央大学文学部長河西良治から神奈川県教育委員会教育長に埋蔵文化財保護法92条第1項に基づく発掘調査の届けを6月14日におこない、6月25日に受理通知（文遺第50026号）を受けた。

調査は7月29日より8月9日までおこなった。調査区は、2012年度のEトレンチ北・中央区、Fトレンチを再確認するとともに、その周辺に4箇所の調査区を設定（Fトレンチ東・西・南・北拡張区と呼称）した。掘削面積は2012年度の既調査区部分32.2㎡を含めて、総計70.9㎡となった。調査終了後の8月14日に、中央大学文学部長河西良治から相模原警察署長に埋蔵物発見届けを提出し、神奈川県教育委員会教育長に8月28日付で出土文化財保管証を提出し、10月2日付けで埋蔵物の文化財認定と帰属について通知を得た。

### 3) 調査参加者・協力者

#### 調査参加者

小林謙一（中央大学）、正洋樹、土井永好（相模原市立博物館）、松川夏樹（相模原市教育委員会）、小澤政彦、永田悠記（中央大学大学院）、西本志保子、譚曉棠（中央大学単位履修生）、矢嶋良多（中央大学卒業生）、武田剛郎（大網白里町）、後藤友美、金城奈緒子、早藤菜、三浦圭裕、佐藤正史、征矢まりな、鈴木草太、杉木



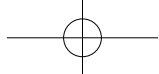
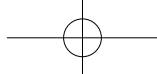


図2 大日野原遺跡調査区周辺図  
(1/2500)



映里奈、伊藤彩佳、長谷川昂、小林祥、大浦愛恵、森田将太郎（中央大学）、尾林亮一、妹尾崇、岡本一希、大作祐太郎、行田美咲、網谷愛美、橋本歩実、降矢祐輔、佐藤春香、戸出晴香、浮津友紀、戸田麻里奈、松本和也、相澤健太郎（中央大学考古学研究会）、橋本望（首都大学東京）、大網信良、平原信、村尾真優、山崎太郎、富樫洋介、根本佑（早稲田大学）、鈴木佑太郎、山崎純一（東海大学）、黒尾大地、濱田昭吾、来海稜（立正大学）、石川和明（個人）、小林尚子（セツルメント研究会）、鹿山茂樹、神垣真理子、樽林亨、荒井基喬、和家洋壽、土屋宗平、鈴木文昭、萩原昭夫、三嶋最都子（以上相模原市立博物館ボランティア）

調査協力者（順不同、敬称略）

門倉睦男（藤野中央公民館長）、河本雅人、中川真人、相田薫（相模原市教育委員会教育局生涯学習部文化財保護課）、黒尾和久（ハンセン病資料館）、中山真治（府中市教育委員会）、武川夏樹（栃木県教育委員会）、野口淳、倉澤麻由子（明治大学校地内遺跡調査団）、清野陽一（人間文化研究機構）、中島将太、平野哲也（杉並区遺跡調査会）、副島蔵人（富士見町井戸尻考古館）、横山真、千葉史（ラング）、三井猛、梅田由子（三井考測）、相模原市教育委員会、藤野中央公民館、鈴木實（地主）

#### 4) 調査日誌抄録

調査日誌抄録

7月29日 機材搬入、調査区を設定、掘削準備

7月30日 E・Fトレンチの埋め戻し土除去、拡張区の表土除去、Ⅱ層まで掘り下げ。

7月31日 トレンチおよびF区東西南北の各拡張区（以下、拡と略記）をⅢ層上面まで掘り下げ。

8月1日 小雨により午前中のみ掘り下げ、光波測定器により遺物取り上げ。

8月2日 E・Fトレンチ交点部分の土手を掘り下げ。F南拡張区円形土坑3基半裁。

8月3日 子ども（親子）体験発掘16人参加。

午後「遺跡・遺構の中の遺物」ワークショップとして3D計測、写真測量のデモを行う（ラング、三井考測）。その後、中央公民館にて研究会。

8月5日 F東拡より後期堀之内式土器片、F西拡より勝坂式土器片多く出土。

8月6日 F東拡から後期前半と思われる土器集中を確認、住居上面の可能性を考え、仮にSI-14と設定。

同様にF南拡の勝坂式古手の土器集中地点はF西拡へ続き、黒色土の落ち込みが認められ、住居の存在を予想してSI-13と設定。夜間に中山真治による講演。

8月7日 光波測定による平面図、および壁のセクション図の作成。午後、現地説明会、夕方に中央公民館にて遺物展示の解説を行う。

8月8日 光波による遺物取り上げ、図面作成、写真撮影、埋戻し。

8月9日 光波による遺物取り上げ、埋戻し、機材搬出。

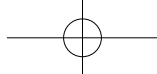
#### 5) 2013年度の調査成果

##### 1. 検出遺構

縄紋時代としては、2012年度に確認された縄紋時代後期堀之内式土器埋設の埋甕SU1と関連する可能性がある後期土器および大型の礫の集中範囲が、SU1の南側2m離れて径4mほどの範囲の堀之内1式を中心とした土器片の集中分布域が検出された。はっきりとしたプランを確認するには至らなかったが、Fトレンチ南およびFトレンチ東拡にかけて竪穴住居のプランらしき範囲が認められ、SI-14住居跡とした。昨年度確認の埋甕は住居に伴う可能性が高いと考えているが、次年度以降の調査に待ちたい。

他に上面からのプラン確認でFトレンチ北拡張部の東側に竪穴住居らしきプランが部分的に認められ、竪穴住居跡の可能性があるが、部分的な確認のため次年度以降に確認する必要がある。

なお、2012年度にEトレンチ西において縄紋時代に属する集石の可能性のある礫集中SS1が1基検出され



ていたが、精査した結果、下部にイモ穴状の後世の落ち込みがあり、その上に礫および土器が集積していることが判明した。おそらくは近代の耕作時における2次廃棄であろう。

古代に属すると考えられる遺構としては、黒色土を覆土とする円形土坑または方形土坑が2012年度に5基検出されていた(SX20・22・23・29・30)。2013年度は、F東拡で1基(SX38)、F南拡で2基(SX40,41)、F西拡で1基(SX36)の4基が新たに確認されたほか、F北拡では2012年度にEトレンチ中央で確認されたSX30の反対側のプランが検出された。古代の土坑は、それぞれ径2m程度、深さ30cmほどの平面円形または方形、断面タライ形の浅い土坑である。

このほか、時期不明のピット、近代以降と考えられる耕作に伴う方形の掘込み(いわゆるイモ穴)が数基検出されている。

## 2. 出土遺物

出土遺物に関しては、縄文時代中期の勝坂式、阿玉台式、後期堀之内式および平安時代と思われる古代の土師器・須恵器を中心に出土しているが、現在整理中であり、詳細は正式な報告をもっておこないたい。

縄文時代の土器としては、前期諸磯b式土器、中期五領ヶ台2式、勝坂1式、勝坂2式、阿玉台Ib式、II式、後期称名寺式、堀之内1式、堀之内2式、加曽利B1式、B2式、安行1式と考えられる土器片が認められているが、現在整理中であり詳細不明である。

石器としては打製石斧、石鏃などが検出されている。

### <参考文献>

藤野町教育委員会 1978『藤野町の埋蔵文化財』

藤野町 1994『藤野町史 資料編上』

藤野町 1995『藤野町史 通史編』

小林謙一他 2004「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定(補)」『シンポジウム縄文集落研究の新地平3—勝坂から曾利へ—発表要旨』縄文集落研究グループセツルメント研究会

小林謙一 2011『発掘で探る縄文の暮らし 中央大学の考古学』中央大学出版部

縄文時代研究プロジェクトチーム 2002「神奈川における縄文時代文化の変遷VI—中期後葉期 加曽利E式土器文化期の様相その2土器編年案—」『研究紀要7 かながわの考古学』(財)かながわ考古学財団

永田悠記・納美保子・小林謙一 2010「2008年度神奈川県相模原市大日野原遺跡の発掘調査」『中央史学』33号 中央史学会

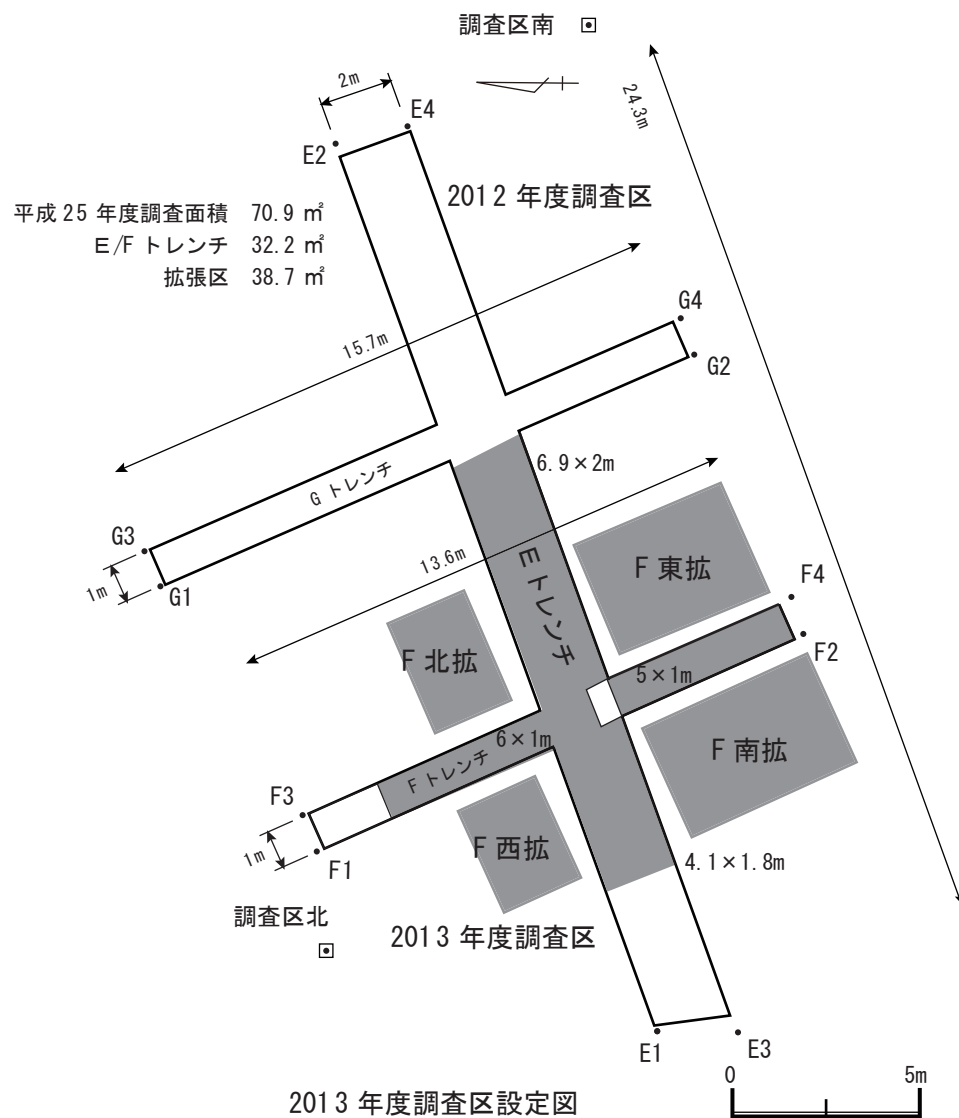
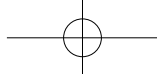
矢嶋良多・小林謙一 2010「2009年度神奈川県相模原市大日野原遺跡の発掘調査」『中央史学』34号 中央史学会

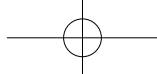
矢嶋良多・小林謙一 2012「2010年度神奈川県相模原市大日野原遺跡の発掘調査」『中央史学』35号 中央史学会

矢嶋良多・小澤政彦・小林謙一 2013「2011年度神奈川県相模原市大日野原遺跡の発掘調査」『中央史学』36号 中央史学会

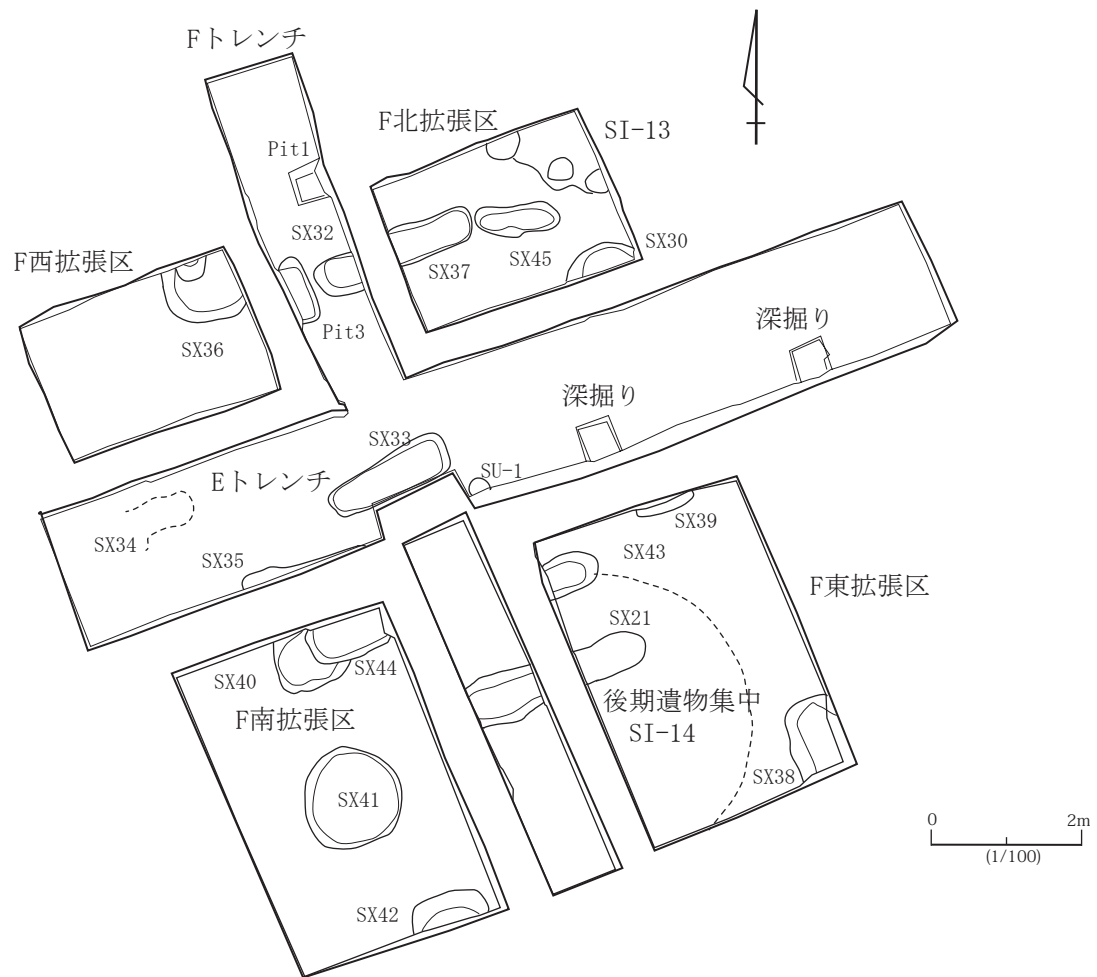
中央大学文学部考古学研究室・相模原市教育委員会 2013『中央大学文学部考古学研究室調査報告書2 大日野原遺跡—第3次発掘調査—遺構編』





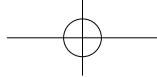


基準点

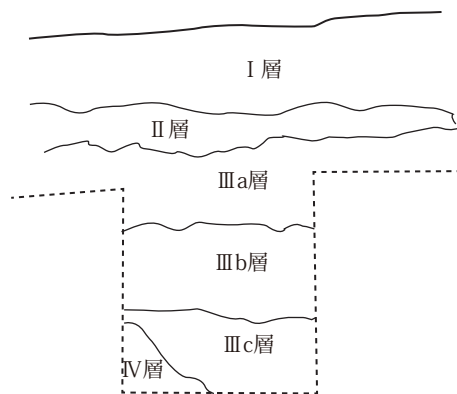


2013年度調査範囲図

図4 2013年度調査区全体図



0.8m W Eトレ 深掘り E



深掘り Eトレ

- I層 10YR2/3 (灰褐色土) 粘、しまり少柔い  
砂利 2～4mm 5%
- II層 10YR2/2(黒褐色土) 粘、しまりやや少、やや柔い  
砂利 2～3mm 3% 黄スコリア 1mm 1%
- IIIa 10YR3/4 (暗褐色) 粘性大、しまりやや大 やや固い  
C 1mm 5%, 焼土粒 1%
- IIIb 10YR3/3 (暗褐色) 粘性大、しまり大 固い  
C 1mm 1%
- IIIc 10YR3/3(富士B)(暗褐色)、粘性大、しまり大、固い  
黄スコリア 3～5mm 3～5%  
黄スコリア 1～2mm 2%
- IV 10YR4/4 (漸移層) ソフトロームを混入

0.8m W F西拡 北壁セク

N

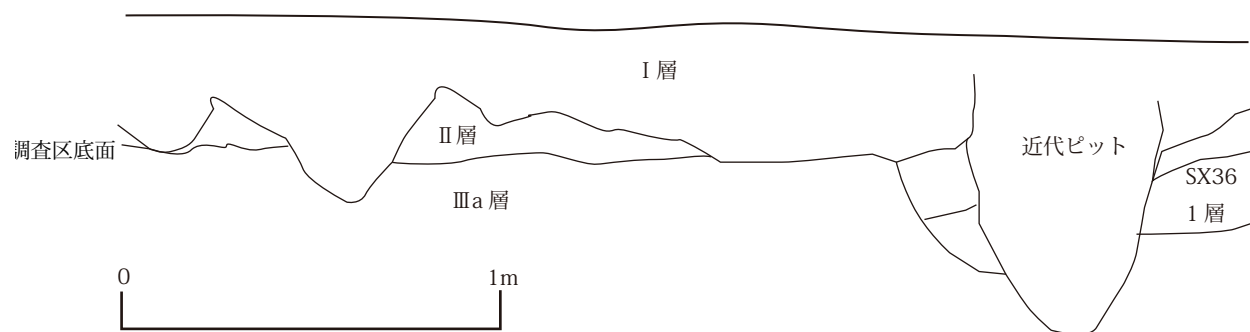
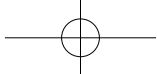


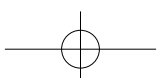
図5 2013年度調査区土層断面図



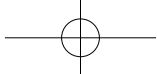


(上) 2013 年度調査区

(下) 調査風景





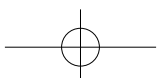


写真図版 2

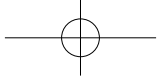


(上) 古代の土坑 (SX-41)

(下) 縄紋時代後期遺物集中 (SI-14) (F 東拡)

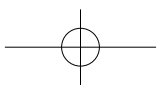




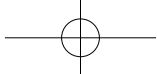


(上) 2013 年度 子ども発掘体験（藤野中央公民館主催）

(下) 2013 年度 発掘参加者

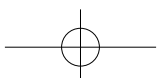




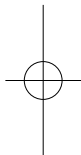
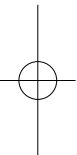
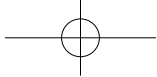


(上) 2013 年度出土遺物 縄紋土器・土製円盤・土師器・須恵器

(下) 2013 年度出土遺物 縄紋石器（打製石斧・敲石・石鏃・石錘・石匙







---

## 大日野原遺跡

－ 2013 年度発掘調査概報 －

2014 年 3 月 31 日

編集・発行 中央大学文学部考古学研究室

〒 192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

TEL042-674-2814

---

